

2 重要窃盗犯

(1) 重要窃盗犯の認知及び検挙の状況

ア 認知状況

平成14年上半期の重要窃盗犯の認知件数は22万9,743件で、前年同期に比べ1万9,100件(9.1%)増加している。特に、侵入盗は前年同期に比べ1万8,537件(12.9%)、ひったくりは前年同期に比べ2,425件(10.7%)増加している(図表1-17、18)。

イ 検挙状況

平成14年上半期の重要窃盗犯の検挙件数は5万8,606件で、前年同期に比べ2,199件(3.9%)増加している。また、検挙人員は1万853人で、前年同期に比べ317人(3.0%)増加している。手口別に見ると、検挙件数は、自動車盗とひったくりが増加し、侵入盗とすりが減少している。検挙人員については、全ての手口で増加している。

また、検挙率は25.5%で、前年同期に比べ1.3ポイント低下している。

図表1-17 重要窃盗犯の認知・検挙状況の推移

年次 区分	平 10	平 11	平 12	平 13		平 14
				(1~6月)		(1~6月)
認知件数	330,369件	367,174	423,281	443,502	210,643	229,743
検挙件数	213,261件	197,011	140,351	120,183	56,407	58,606
検挙人員	24,533人	24,533	22,126	22,493	10,536	10,853
検挙率(%)	64.6%	53.7	33.2	27.1	26.8	25.5

図表 1 - 18 重要窃盗犯手口別認知・検挙状況の比較

区分		年次	平 13 (1 ~ 6月)	平 14 (1 ~ 6月)	増 減	
					件数・人員	率 (%)
認 知 件 数	総 数		210,643件	229,743件	+ 19,100	+ 9.1
	侵 入 盗		143,272	161,809	+ 18,537	+ 12.9
	住宅対象		73,407	88,753	+ 15,346	+ 20.9
	そ の 他		69,865	73,056	+ 3,191	+ 4.6
	自 動 車 盗		31,926	30,474	- 1,452	- 4.5
	ひ っ た く り		22,750	25,175	+ 2,425	+ 10.7
	す り		12,695	12,285	- 410	- 3.2
検 挙 件 数	総 数		56,407件	58,606件	+ 2,199	+ 3.9
	侵 入 盗		42,018	41,589	- 429	- 1.0
	住宅対象		21,273	21,666	+ 393	+ 1.8
	そ の 他		20,745	19,923	- 822	- 4.0
	自 動 車 盗		5,976	6,528	+ 552	+ 9.2
	ひ っ た く り		6,081	8,328	+ 2,247	+ 37.0
	す り		2,332	2,161	- 171	- 7.3
検 挙 人 員	総 数		10,536人	10,853人	+ 317	+ 3.0
	侵 入 盗		6,351	6,377	+ 26	+ 0.4
	住宅対象		2,403	2,417	+ 14	+ 0.6
	そ の 他		3,948	3,960	+ 12	+ 0.3
	自 動 車 盗		2,320	2,351	+ 31	+ 1.3
	ひ っ た く り		1,477	1,726	+ 249	+ 16.9
	す り		388	399	+ 11	+ 2.8
検 挙 率	総 数		26.8%	25.5%	- 1.3 ポイント	
	侵 入 盗		29.3	25.7	- 3.6	
	住宅対象		29.0	24.4	- 4.6	
	そ の 他		29.7	27.3	- 2.4	
	自 動 車 盗		18.7	21.4	+ 2.7	
	ひ っ た く り		26.7	33.1	+ 6.4	
	す り		18.4	17.6	- 0.8	

(2) 侵入盗の状況

平成14年上半期の侵入盗の認知件数は16万1,809件、検挙件数は4万1,589件、検挙人員は6,377人で、前年同期に比べ、認知件数は1万8,537件(12.9%)、検挙人員は26人(0.4%)それぞれ増加している。しかし、検挙件数は、前年同期に比べて429件(1.0%)減少、検挙率は25.7%で3.6ポイント低下している(図表1-19)。

また、ピッキング用具を使用した侵入盗事件の認知件数は9,975件で、前年同期に比べ1,195件(13.6%)増加している(図表1-20)。

図表1-19 侵入盗認知件数・検挙件数・検挙人員の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13		平14
				(1~6月)		(1~6月)
認知件数	237,703件	260,981	296,486	303,698	143,272	161,809
検挙件数	165,818件	152,984	109,128	89,456	42,018	41,589
検挙人員	15,480人	15,234	13,651	13,712	6,351	6,377
検挙率(%)	69.8%	58.6	36.8	29.5	29.3	25.7

図表1-20 ピッキング用具を使用した侵入盗の認知件数の推移

年次 区分	平12	平13		平14
		(1~6月)		(1~6月)
認知件数	29,211件	19,568	8,780	9,975

(3) 自動車盗の状況

平成14年上半期の自動車盗の認知件数は3万474件、検挙件数は6,528件、検挙人員は2,351人で、前年同期に比べ、認知件数は1,452件(4.5%)減少し、検挙件数は552件(9.2%)、検挙人員は31人(1.3%)それぞれ増加している。検挙率は21.4%で、前年同期に比べ2.7ポイント上昇している(図表1-21)。

図表1-21 自動車盗認知件数・検挙件数・検挙人員の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13		平14
				(1~6月)		(1~6月)
認知件数	35,884件	43,092	56,205	63,275	31,926	30,474
検挙件数	18,210件	15,241	11,415	13,390	5,976	6,528
検挙人員	5,495人	5,028	4,590	4,933	2,320	2,351
検挙率(%)	50.7%	35.4	20.3	21.2	18.7	21.4

ア 被害額別の推移

平成14年上半期の被害額200万円以上の自動車盗の認知件数は9,097件で、前年同期に比べ1,986件(17.9%)減少している。また、自動車盗の全認知件数に占める被害額200万円以上の件数の比率は29.9%で、前年同期に比べ4.8ポイント低下している(図表1-22)。

図表1-22 自動車盗被害額別認知件数の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13		平14
				(1~6月)		(1~6月)
認知件数	35,884件	43,092	56,205	63,275	31,926	30,474
うち被害額200万円以上	9,921件	14,764	20,758	21,062	11,083	9,097
被害額200万円以上の比率(%)	27.6%	34.3	36.9	33.3	34.7	29.9

イ 被害車両の回復率の推移

平成14年上半期の被害車両の回復件数は9,949件で、前年同期に比べ574件(6.1%)増加している。また自動車盗の全認知件数に占める回復件数の比率は32.6%で、前年同期に比べ3.2ポイント上昇している(図表1-23)。

図表1-23 被害車両の回復件数・回復率の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13		平14
				(1~6月)		(1~6月)
認知件数	35,884件	43,092	56,205	63,275	31,926	30,474
回復件数	17,764件	16,512	16,914	19,579	9,375	9,949
回復率(%)	49.5%	38.3	30.1	30.9	29.4	32.6

(4) ひったくりの状況

平成14年上半期のひったくりの認知件数は2万5,175件、検挙件数は8,328件、検挙人員は1,726人で、前年同期に比べ、認知件数は2,425件(10.7%)、検挙件数は2,247件(37.0%)、検挙人員は249人(16.9%)それぞれ増加している。検挙率は33.1%で、前年同期に比べ6.4ポイント上昇している(図表1-24)。

図表1-24 ひったくり認知件数・検挙件数・検挙人員の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13		平14
				(1~6月)		(1~6月)
認知件数	35,763件	41,173	46,064	50,838	22,750	25,175
検挙件数	19,636件	20,597	14,796	12,925	6,081	8,328
検挙人員	2,605人	3,304	3,072	3,078	1,477	1,726
検挙率(%)	54.9%	50.0	32.1	25.4	26.7	33.1

(5) 組織窃盗事件

平成9年4月以降、組織窃盗対策を推進した結果、平成14年上半期までに、各都道府県警察で組織窃盗事件として288事件を認定し、これまでに来日外国人や暴力団組員を含む被疑者3,401人を検挙し、5万4,761件（被害総額691億6,213万円相当）の窃盗事件を解決している。

また、平成14年上半期に、各都道府県警察が認定した組織窃盗事件のうち、特に重要な49事件を、警察庁登録組織窃盗事件とし、全国警察に情報提供を求めるなど、組織壊滅を主眼とした捜査を強化しており、うち38事件を検挙・解決している。

なお、平成14年上半期の窃盗犯検挙件数に占める共犯者がいる事件の割合をみると、全窃盗犯においては23.2%であるのに対し、来日外国人の共犯率は60.7%、暴力団組員等の共犯率は60.5%と高い割合を占めている（図表1-25）。

図表1-25 来日外国人・暴力団組員等による窃盗事件の共犯率の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13		平14
				(1~6月)		(1~6月)
全窃盗犯	14.9%	16.6	19.1	21.8	21.0	23.2
来日外国人	46.6%	49.6	53.3	63.9	65.0	60.7
暴力団組員等	27.0%	33.1	37.7	45.9	38.5	60.5

【事例1】暴力団員等による質店・貴金属店等を対象とした広域組織窃盗事件（兵庫、愛媛、高知、徳島、京都）

指定暴力団山口組系暴力団組員の男(30)が、窃盗前歴者や元暴走族等素行不良者を集めて窃盗グループを組織し、西日本各地において、盗難車両で店舗に突入させるなどした上、高級腕時計、貴金属、ブランド商品等を組織的に盗み出していた。

2月までに、首魁を含む被疑者38名、1都15府県下にわたる出店荒し等1,111件（被害総額8億534万2,647円相当）を検挙、解決し、窃盗組織を壊滅した。

【事例2】来日外国人グループによるピッキング用具使用の広域組織窃盗事件（愛知、岐阜、山形、岡山）

中国福建省出身者である首魁の男(27)が、不法残留の中国人等を配下として、中部・関東地方を中心にピッキング用具を使用して侵入する金庫破りや空き巣ねらいを広域にわたって敢行していた。

1月までに、首魁を含む被疑者30名、1都23府県下にわたる金庫破り事件等579件（被害総額5億6,696万円相当）を検挙、解決し、窃盗組織を壊滅した。

【事例3】海外輸出目的の建設用重機を対象とした広域自動車盗事件（静岡）

海外輸出業を営む男(58)が、暴力団員や来日外国人と窃盗グループを組織し、関東・中国方面を中心に油圧ショベルを対象とする窃盗事件を組織的に敢行していた。2月までに首魁を含む被疑者27名、1都13県下における建設重機を対象とした自動車盗73件（被害総額7億7,000万円相当）を検挙、解決し、組織を壊滅した。